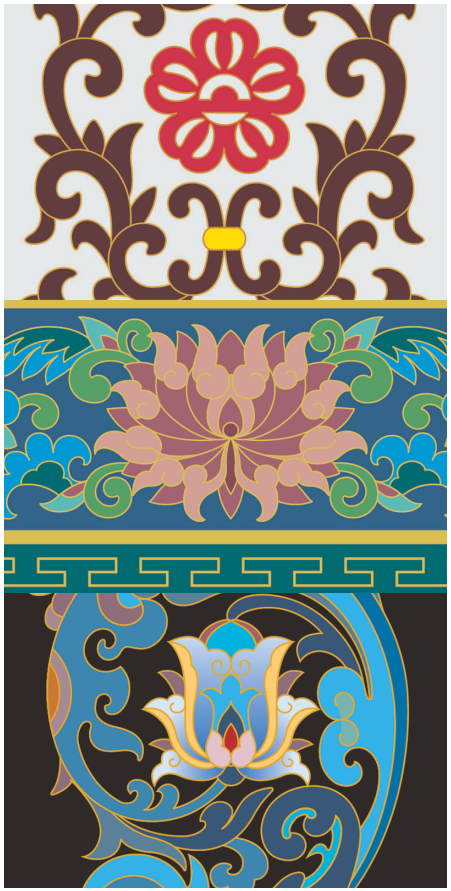
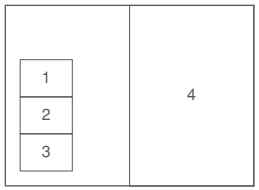
CD 01 029〜032

装飾-3の2【そうしょく】

中国の陶芸、建築装飾に見る民族的風格

紀元前（450〜220年頃）すでに金メッキや銀メッキが施されていたという青銅器や石窟壁画群に見られる造形図案は、後代のさまざまな中国の文物に引き継がれています。西域から流れてきた職人たちも模倣し、現地人とともに発展させた美は、中国の「民族的風格」をかもし出しています。





1 四方（面）瓶（へい）部分 CD 01_029
実物は中国剪紙（せんし／切り紙）風の模様なので、親しみやすい感じながら、やはり高貴感があります。

2 蓮文 杯（はい）部分 CD 01_030
中国の蓮文は、このようにシンメトリーな蓮が多いのですが、日本ではあまり見かけません。

3 蓮鳥文 杯（はい）部分 CD 01_031
多く見られる蓮文と違って、華麗な線の集合が生き生きとして、しかも上品な派手さをもっています。

4 姫百合文 瓶（へい）部分 CD 01_032
中国そのもののまとまりを見せています。百合は華麗ではなく妖麗で、蕾も葉も不思議な印象です。